

一般環境経路による石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査

265百万円(94百万円)

環境保健部企画課石綿健康被害対策室

1. 事業の概要

石綿取扱い施設周辺などで一般環境経路による石綿ばく露の可能性があった代表的な地域において、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態を引き続き把握するとともに、新たに有所見群と無所見群の2群を設定し、各群に属する住民を対象に、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施する。

全調査対象者に対して、定期的な検査(年1回)、適切なフォローアップを行いながら、石綿関連所見の変化や石綿関連疾患の発生状況を把握し、2群間の比較を含めた解析を行う。

2. 事業計画

調査対象地域それぞれにおいて、これまでの調査で得られた知見を活用して、平成22年度より対象者を大幅に増加させ、新たに有所見群と無所見群の2群を設定し、調査期間を5年間とした実態把握調査を開始する。

区 分	21	22	23	24	25	26
石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査	→					
(3地域：大阪府泉南地域、尼崎市、鳥栖市) H18～	→					
(6地域：奈良県、羽島市、横浜市鶴見区) H19～	→					
(7地域：北九州市門司区) H21～	→					
石綿ばく露の健康リスク評価に関する調査【改編】						
(7地域：上記) H22～						→

3. 施策の効果

一般環境経路による石綿ばく露の可能性があった代表的な地域において、新たに、

2群間の石綿関連疾患リスクの差の有無の把握

定期的な検査の有効性に係る解析

を行い、得られた成果をその後の石綿関連施策に反映させる。

次期健康リスク調査のイメージ

対象者

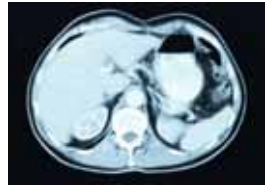
石綿取扱い施設周辺などで一般環境経路による石綿ばく露の可能性のあった代表的な地域の住民
(対象者数を大幅に増加)



対象集団設定

有所見群

無所見群



定期的な検査等

問診、胸部X線、
胸部CT、等

問診、胸部X線
最終年に胸部CT、等

5年
間程
度実
施

・石綿関連所見を詳細に把握
・中皮腫、肺がん等に罹患した場合は把握
(毎年の調査実施結果を集計・公表する。)



調査期間終了後、
・2群間の石綿関連疾患リスクの差の有無の把握
・定期的な検査の有効性に係る解析
を行う。

成果をその後の石綿関連施策に反映